

学生懸賞論文の総括

本年度の学生懸賞論文は、昨年度（57編）を大幅に上回る82編の応募がありました。学部ごとには、経済学部42編、社会学部22編、経営学部1編、国際教養学部15編、法学部2編でした。

審査は、学生論集刊行委員会が予備審査を行った後、応募学生の所属ゼミ担当教員以外の教員による本審査が行われました。その結果、65編が予備審査を通過し、本審査を経て、最終的に優秀作1編、佳作4編、準佳作4編が入選となりました。

入選作9編は、①問題意識を明確に提示し、②先行研究の考察を通じて自らの研究課題を設定し、③膨大な量の資料収集や調査を行い、それらを分析したうえで、④自らの主張や見解を論理的かつ客観的に述べているという点で共通しており、この点については各審査員から高い評価を得ています。

一方、残念ながら選外となった論文については、説明すべき問題が不明瞭であったり、注記や引用表示に不備があるなど、論文としての基本要件が欠けているという問題が指摘されるほかに、ネットからの剽窃、切り貼りといった著作権侵害に等しいものも散見されました。専門演習等の場で、文書を書く訓練をさらに磨いて、再度挑戦してください。

本学のよき伝統として、この学生懸賞論文の制度を一層発展させていくのは、他ならぬ学生の皆さんです。今回応募された学生諸君一人ひとりに感謝するとともに、来年度以降の応募を期待しています。

最後に、本論集刊行に至るまで、学生の応募論文を指導され、また本審査の依頼をご快諾くださいました諸先生方をはじめ、学部事務課、教務課、研究支援課の事務職員の皆様に多大なご尽力を賜りましたこと、厚く御礼申し上げます。

2012年3月

学生論集刊行委員会

金光 明雄（経営学部）

田代 昌孝（経済学部）

松澤 俊二（社会学部）

境 真理子（国際教養学部）

小宮 京（法学部）